

事業報告書

平成19年度
(2007年)

自 平成19年4月 1日
至 平成20年3月31日

普及事業部

2007年度の目標である「地方ブリッジの会員の増加」、②ブリッジ普及体制の支援強化、③ユース層へのブリッジ普及 達成のため、下記の事業を行った。

I. 事業の概況

予算額	決算額	予算残
¥80,495,000	¥73,009,589 (90.70%)	¥7,485,411

普及部会

予算額	決算額	予算残
¥8,507,000	¥6,719,252 (78.98%)	¥1,787,748

1. 各種イベントへの参加、体験教室・講習会の開催と援助、人材の育成（普及協力員・学校向け講師）など。

(1) 第22回国民文化祭とくしま2007 生活文化総合フェスティバル（決算¥194,099／予算¥488,000）

*特筆事項：国民文化祭実行委員会より助成金（計¥254,818）が支給され、予算を大幅に下回った。

[会 期] 平成19年10月31日～11月4日（6日間）

[会 場] 徳島県徳島市徳島市立体育館

[事業内容]

1) ミニブリッジ体験教室、コントラクトブリッジ練習サロン、ブリッジ紹介パネル、カード及びブリッジが登場する小説等ブリッジ関連資料の展示、国際マインドスポーツ協会（IMS A）／2008年第1回ワールドマインドスポーツゲームズ北京開催決定の告知パネルの展示、コントラクトブリッジ・デモンストレーションゲーム（協力：高松BC）、PCソフトウェア紹介（PC4台を設置）、プロモーションビデオ放映

2) 広報活動

[スタッフ体制] 地元で会員・会友がいない地での開催であったため、地元出身会友や近隣県在住会友総勢16名の協力を得て、常時5名以上が指導に当たれる体制で臨んだ。

[事前広報]

1) 年初から公民館やカルチャーセンター、報道各社、青少年センターを訪問してのブリッジPR活動を行ったことを手始めに国民文化祭実行委員会経由で県庁／全県の公民館に出展案内チラシ1000枚を配布。

2) 開催1ヶ月前から直前... ①徳島新聞本誌記事掲載（3回）、②四国放送ラジオ番組（3回）、③地元各種団体（ロータリークラブ等）への案内チラシ配布、④広告掲出（徳島新聞国民文化祭特集号・関連紙等計3回）

[成 果]

- 6日間の体験教室参加者は700名。その他に学校動員による生徒たち約1500名が来場。
- 会員数が国民文化祭前の3名から2007年度末には6名に増加した。
- 徳島大学や地元の囲碁サークル、市民、報道機関の間でブリッジの知名度が大幅に向上した。
- 体験教室参加者の要望により、高松から会友が通っての入門講習会がスタート、現在も継続中。

(2) NECブリッジフェスティバル体験教室（¥325,894／予算¥306,000／△¥19,854）

*特筆事項：デビュタント杯参加料（¥80,000）／ハシノスケ杯参加料（¥5,500）計¥85,500の収入があり、実質は予算内に収まった。

[会 期] 平成20年2月9日～10日

[会 場] 横浜国際平和会議場アネックスホール（神奈川県横浜市）

[事業概要・成果]

『第1回ワールドマインドスポーツゲームズ』の10月北京開催決定を記念したイベントと位置付け、その全5種目「ブリッジ」「囲碁」「チェス」「ドラフツ(チェッカー)」「シャンチー(中国将棋)」を関係各組織のご協力をいただいて紹介、昨年にも増してバラエティーに富んだプログラムで臨んだ結果、2日間で450名という過去最高の参加者を集めて大成功のうちに終了した。ブリッジプログラムにおいて試合経験のない入門講習会を終了した程度の初心者を対象にしたゲーム大会「デビュタント杯」を開催したことは講習会受講途中の初心者の方たちや指導に当たっている会員・会友諸氏から、身近な目標となり、継続する意欲につながる大きなステップと歓迎の声があがった。また昨年に引き続き賞品を提供してくださる協賛社がついたことは、一般参加者に対してだけでなくマインドスポーツ各組織間でも「明るく、楽しいブリッジ」というイメージ向上につながる効果があった。

<ブリッジ・プログラム> 協賛：(株)オブコスメティックス

①ミニブリッジ体験教室…一般/ジュニア対象

ジュニアの来場者は2日間で延べ60名。そのうちジュニアくらぶ会員のリピーターが延べ24名。新たに13名がジュニアくらぶ会員になり、内1名がその場でジュニア会友(2007年度末時点で計83名)に登録。

②コントラクトブリッジ練習サロン…講習会受講中の参加者で終日賑わった。

③コントラクトブリッジ初心者向けゲーム大会「第1回デビュタント杯」…2回開催、計80名参加

④ミニブリッジゲーム大会「第4回ハシノスケ杯NECスペシャル」…10日に開催、小1～中1ジュニア11名とフロッター1名。3チームで1ラウンド6ボードのトライアングルチーム戦を行なった。

<囲碁プログラム> 運営：(株)スターナイン 後援：国際囲碁連盟/ (財)日本棋院/ (財)日本ペア碁協会

①「囲碁を覚えよう」講座…大盤を使用してのルール説明/指導碁

②自由対局サロン

③「子ども大会」…9日に開催、計20名参加

④「プロ棋士による多面打ち」…10日に開催、計20名参加

<チェス・プログラム> 協力：日本チェス協会…体験/自由対局コーナー

<シャンチー(中国将棋)・プログラム> 協力：日本シャンチー協会…体験/自由対局コーナー

<ドラフツ(チェス)・プログラム> 協力：NPO 盤友引力 …体験/自由対局コーナー

<シール・ラリー> 昨年に引き続き実施。マインドスポーツ1種目を体験するごとに1枚のシールを獲得して記念品と交換、全5種目を体験するとさらに特別プレゼントを進呈するという企画。予想を大幅に超える50名が全種目を体験した。

(3)「ブリッジを愉しむ会」 (¥744,554/予算¥724,000/△¥20,554)

[事業内容]日頃ブリッジをプレイする機会が少ないプレイヤーを対象に懇親会形式で①4/11(参加者39名)、②7/13(参加者31名)、③10/12(参加者36名)、④1/9(参加者44名)の計4回実施した。

各回毎の収支状況：

実施日	参加者	収入(参加料)	支出(経費)	収支
4/11	39名	¥190,000	¥179,873	¥10,127
7/13	31名	¥145,000	¥171,512	△¥26,512
10/12	36名	¥175,000	¥218,813	△¥43,813
1/9	44名	¥195,000	¥179,067	¥15,933
計	150名	¥705,000	¥749,265	△¥44,265

(4)普及協力員養成講習会 (¥40,000/予算¥248,000)

[事業内容]

2007年度より従来の方式(講師がテキスト教材一式を渡してミニブリッジによる指導法からコントラクトブリッジへの移行方法を説明)による普及協力員講習会に加え、普及事業部が地方リジョナルなどに出向いて体験教室を行う際に協力をお願いする地元アシスタントの皆様を対象に体験教室開始前の時間を利用

してのワークショップ方式をテスト的に実施。テキスト教材を渡した上で、ベテランの体験教室講師がテキストのコンセプトや内容を説明、その後の体験教室でアシスタントをしながら講師の指導法を実戦形式で体得してもらう方法である。ミニブリッジを指導できる人材を体験教室を行う地方ごとに確実に育成することができ、教わる側にとっても現場で講師の指導を受けながら実経験を積むことができることで自信につながり、しかも普及事業部／講師／学ぶ側、全員にとって時間と経費の有効活用にもつながるというメリットがあった。

講習会／ワークショップ：計7回 25名、千葉／福岡（2回）／仙台／バンコク／札幌／東京

* 従来の方法による普及協力員養成講習会：4回、18名

①4/11 京葉BC（4名） ②7/12 福岡BP（3名） ③7/26 福岡BP（9名） ④1/16 JCBL（2名）

* ワークショップ形式：3回、9名

①5/19、20 仙台 青葉まつりリジョナル体験教室（2名） ②6/14 バンコク日本人クラブブリッジ部（4名） ③6/30、7/1 北海道リジョナル体験教室（3名）

(5) 体験教室・講習会への助成（¥3,296,337／予算¥3,690,000）

[事業内容]

●ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する体験教室の助成

2007年度総数：44件、受講者868名、1件当たり平均20名

(2006年度総数：62件、受講者975名、1件当たり平均16名)

(2005年度総数：42件、受講者817名、1件当たり平均19名)

●クラブ及び個人が開催する入門教室の助成

2007年度総数：18講座、受講者179名、1件当たり平均10名

(2006年度総数：18講座、受講者248名、1件当たり平均14名)

(2005年度総数：18講座、受講者178名、1件当たり平均10名)

●カルチャー講座アシスタント料の助成

2007年度総数：26講座、受講者213名、1件当たり平均8名

●ブリッジセンターの新人育成褒賞 [¥1,300,000]

本規定は2002年度から2006年度にかけて期間限定で実施したものの。制度最終年度となった2006年度は横浜BCなど計5件、130名。

5年間の本制度期間中、6ブリッジセンターが行った計480名の新人育成(6ヶ月継続者育成)活動を助成した。

<BC報奨>

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	計
四谷BC	¥440,000	¥260,000	¥260,000	¥390,000	¥640,000	¥1,990,000
東中野BC	¥60,000	¥80,000	¥40,000			¥180,000
吉祥寺BC				¥230,000	¥170,000	¥400,000
横浜BC	¥330,000	¥370,000	¥210,000	¥130,000	¥200,000	¥1,240,000
大船BC		¥330,000	¥90,000	¥120,000	¥120,000	¥660,000
京葉BC			¥90,000	¥70,000	¥170,000	¥330,000
計	¥830,000	¥1,040,000	¥690,000	¥940,000	¥1,300,000	¥4,800,000

(6) 学校担当ブリッジ講師養成講座の開催（¥0／予算42,000）

[事業内容]

慶應義塾普通部(中学校)、同幼稚舎(小学校)で行なった通年授業の指導で蓄積したノウハウや発見した課題などを有効活用することで、教育現場という特殊な環境で小学生から高校生までを適切に指導できるブリッジ講師を養成するプログラムを作成、講師養成講座の開講をめざしていたが残念ながら開講までにはいたらなかった。2008年度への持ち越しとする。

(7) ブリッジ講習会講師料助成 (¥175,200/予算¥360,000)

[事業内容]

ブリッジを広めるにあたって特に重要と普及事業部が判断した受講生が少ない外部講習会講師への助成。
*金沢八景の八景学院、札幌カルチャーセンター平岡の2ヶ所に対して助成を行った。

(8) 海外クラブへの支援 (¥47,314/予算¥150,000)

[事業内容]

ジャカルタ・ジャパンクラブブリッジ部を PABF バンドン大会の帰路に訪問、ブリッジ交流会、体験教室開催、普及協力員ワークショップ、JTOS 使用法説明会などを行なったほか、上海、バンコクのブリッジクラブに資料/普及グッズ提供の支援を行なった。他の海外クラブとのコミュニケーション量も増加し在留邦人が一時帰国の折などに JCBL を訪ねてくださる件数も増えた。

2. 地方クラブの調査・支援と地方会員の獲得 (¥1,605,564/予算¥1,764,000)

[事業内容]

地方におけるブリッジの認知度をあげ、ブリッジ人口増加につなげるため、主としてリジョナル開催時を利用して地元メディア全社へのリリース配布と PR 訪問・終了後のフォロー体制を確立させた上での体験教室をセットで実施した。そのほか、地元の発展に寄与できる状況をつくりだすため、関東北部、東北のブリッジクラブ・同好会を訪問し、どのような支援が必要かについての聞き取り調査を行った。昨年に引き続き、困った時には気軽に相談していただけるようなスムーズなコミュニケーション関係構築に努めて「顔のみえる」地方クラブ調査・支援事業を全国規模で実施した。

*直接訪問して行なった事業:

- [4月] ①高松-瀬戸内海ブリッジフェスタ体験教室開催/高松メディアまわり
- ②札幌-アウクル/ロイトンスポーツクラブとの提携打ち合わせ
- [5月] ③、④仙台(2回)-青葉祭りリジョナル体験教室準備・開催/仙台メディアまわり
- [6月] ⑤沖縄-沖縄ブリッジ同好会普及支援/メディアまわり
- [7月] ⑥札幌-北海道リジョナル体験教室開催/メディアまわり
- [8月] ⑦浜松-浜松リジョナル体験教室開催/メディアまわり
- [9月] ⑧群馬ブリッジの会/渋川ブリッジの会/宇都宮 BC/仙台 BC/盛岡 BC/札幌 BC/秋田ブリッジの会訪問
- ⑨仙台 2007 地球フェスタ体験教室/メディアまわり
- [10月] ⑩広島-中国新聞社杯・広島リジョナル体験教室/メディアまわり
- ⑪長崎-ながさき国際協力・交流フェスティバル体験教室/チェスクラブとの交流
- [2月] ⑫長崎-長崎ランタンフェスティバル新人戦後援/チェスクラブとの交流

3. 新入会友の獲得 (¥190,330/予算¥485,000)

[事業内容]

「新入会・再入会」キャンペーンと会員・会友を対象にした「新入会友紹介キャンペーン」を2007年1月1日から4月30日の期間で実施、新入会者/再入会者/紹介者に JCBL オリジナルグッズを進呈して会友の増加をはかった。

* 期間中の入会者: 221名 内、新入会 179名 (81%)、再入会 42名 (19%)
内、紹介者あり 134名 (60.6%)

* 紹介者 70名

4. リタイア層へのブリッジ普及 (¥100,000/予算¥200,000)

[事業内容]

- 1) 四谷ブリッジセンターで隔週開催のシニアブリッジサロン講師料を助成。(各回5~6Tで開催)
- 2) (社)中高年齢者雇用福祉協会(JADA)のアニヴァーサリーブック「ないすらいふ」の表3、会員証送付票にブリッジPR広告を掲出したほか、JADAニュース3月号にブリッジ奨励記事を投稿した。

5. インターネットを利用したブリッジ普及 (¥0/予算¥50,000)

ブリッジ講習を受ける環境にない地方において新規地方会友を開拓すること、および頻繁に集まることが物理的にできないプレイヤー同士が練習できる環境を整備することを目的に、問題点、課題などを調査している段階だが、本年は国際交流事業部で実施した日本代表チームを対象にしたネット練習会、そしてネット競技会形式で実施したユース代表選考試合などが参考要素として加わった。

ユース部会

予算額	決算額	予算残
¥9,163,000	¥6,464,615 (70.6%)	¥2,698,385

若年層へのブリッジ普及のため、本年度は以下の事業を行った。

1. 青少年対象の団体(機関)との提携 (¥55,902/予算¥68,000)

[事業内容]

- 1) インドネシア・バンドン日本人学校体験教室 (20名)
- 2) 文部科学省「霞ヶ関こども見学デー」体験コーナー (100名)
- 3) 武蔵野第一中学「いちちゅうフェスタ」体験教室 (11名)
- 3) 大船高校ミニブリッジ講座 (4名)

計135名が体験

2. 現役ユースへの支援

(1) 大学クラブ新入部員勧誘活動助成 (¥40,025/予算¥260,000)

[事業内容]

春の新入生入学時の勧誘活動に関しては、チラシの大量印刷を事務局で行なう形で支援、また11月16日～18日の東京大学駒場祭マインドスポーツカーニバル(ブリッジ部・囲碁部・将棋部・オセロ部)において昨年度に製作したマインドスポーツTシャツを提供するなど、主として現物支援を行なった。

(2) 学生向けの合宿の学生リーグとの共催・支援活動 (¥10,600/予算¥930,000)

[事業内容]

8月21日～24日、大阪大学で開催された学生選手権/合宿に参加したブリッジを始めて1年目の学生2人(東京大学1年/学習院大学1年)に、交通費・宿泊費を助成した。春季合宿は実施せず。

3. 学生選手権 (¥0/予算¥0)

*参加者計26名(内、1年目2名)。

*学生選手権結果： 優勝-学習院大/東北大、準優勝-京大、3位-阪大、4位-東大/早稲田、5位-京大・阪大

4. ユース・スクール代表選抜・強化プログラム・国際試合への派遣

(1) 第45回PABFバンドン大会へ ジュニア/スクールチーム派遣 (¥2,880,795/予算¥2,377,000)

*特筆事項：高校生2名が代表に選出されたため、保護者・学校に対する責任上、担当事業部長がマネージャーとして同行した分の航空運賃、滞在費など予算計上時には予測不能であった経費が発生したため予算額を上回った。

[事業内容]

6月3日～13日にかけてインドネシア・バンドンで開催されたPABFバンドン大会にユース(U26)チーム6名とスクール(U21)チーム6名を派遣した。

*NPC：寺本直志、NPC補佐：仲村篤志、マネージャー：高橋陽子

*ジュニアチーム(26歳未満)：今井智士(大阪大学)、田中治輝(大阪大学)、横井大樹(東北大学)、志賀元明(東北大学)、三浦裕明(東京外国語大学)、岡本崇宏(大阪大学)

*スクールチーム(21歳未満)：中村和宏(東北大学)、伊井康朗(京都大学)、後藤田俊輔(学習院大学)、中館龍(早稲田大学)、笹川雄太(高校生)、杉本大輔(高校生)

〔結果〕

- *ジュニアチーム：9カ国中5位。プレイオフに進んだが、惜しいところで世界選手権出場枠を逃した。世界選手権ゾーン6代表の権利は、香港、台湾、インドネシアが獲得した。
- *スクールチーム：6カ国中6位。世界選手権出場枠は、シンガポール、台湾、インドネシアが獲得した。殆どの選手が初めての外国、初めての国際試合で実力を十分に発揮できなかった感がある。改めて海外で国際試合の経験を積ませる重要性を認識した。
- *6月12日に行われたPABFオープン・ペア予選には、ジュニア・スクールチームから3ペアが参加、全60ペアの中から田中・後藤田ペアが18位で予選をクリア、13日の決勝に臨んだ。結果16位で終了したが、「ベスト・ユース賞」を獲得、閉会式典で表彰された。仲間2名が表彰台に上がり、トロフィーを獲得したことは、体調を崩した選手が12名中9名と続出した中で低迷に終わった今回のPABFユース/スクールチームに最後の最後までたらされた明るいニュースであった。

(2) ユース強化プログラム (¥873,390/予算¥1,812,000)

- *特筆事項：主として次の宿泊交通費を不要にしたことで経費削減が可能になった。①東京に集まって行っていた第二次代表選考試合をBBOを使つてのネット戦にした、②関西の学生に対しては木村六郎杯を柳谷杯に代わる強化試合とみなした③東京で実施予定だったPABF直前練習会を早めにバンドン入りして行なった。

〔事業内容〕

ユース/スクールの強化および日本代表の選考を目的とした強化プログラムでは柳谷杯、横浜インビテーションショナル、朝日新聞社杯、NEC杯を実戦練習の場とし、各競技会終了後には検討会、指導を行なった。選手に対してこれらの競技会参加料を助成したほか、その他の強化練習会、2回にわたった代表選考試合、代表としての渡航直前練習会などに講師を派遣し、遠隔地から参加する選手に対して交通費、宿泊費を助成した。また今回の日本代表選手たちは海外経験が公私ともにない（もしくは少ない）選手が大多数であったため、国際試合に参加する時のマナーや心得、必要な言葉や言い回しなどの英語を指導する事前特別講習会を実施した。

5. ユース/ジュニア会友の国際試合への参加助成 (¥0/予算¥200,000)

〔事業内容〕

若年層プレイヤーが世界のブリッジに触れ、国際経験を積むためにWBFなどが主催するユース/スクール競技会、香港インターシティーなどへの参加希望者がいた場合、1名につき¥5万、4名を限度に助成することを予定していたが、PABFで予算を超えたため本年度の実施は見送りとし、PABF赤字分補充に充てた。

6. 学校教育現場におけるユース層普及活動

(1) 慶應義塾普通部「ブリッジ授業」 (¥272,050/予算¥1,068,000)

- *特筆事項：履修2年目のクラス用にテキスト続編を製作する予定で製作費を予算計上していたが、学校側の方針で1クラスのみとなったため予算約¥80万残。

〔事業内容〕

慶應義塾普通部の選択授業「ブリッジ講座（1クラス、生徒数26名）は3年目の本年、講師/アシスタント計4名体制で計26回の授業を実施した。1学期はミニブリッジで基本プレイを集中して習得、2学期からオークションに入る指導法をとった。本年度は全員初めての生徒たちで昨年からの継続者がいなかったため、予定していた既存テキストの続編製作ではなくこれまでの「ミニブリッジ～コントラクトブリッジ初級教材」の改良作業を行なうにとどまった。残念ながら文部科学省のゆとり教育の見直しにより学校側が大幅に授業編成の変更を余儀なくされたことに伴い、本年度末で終了となった。

(2) 東京大学全学体験ゼミナール「考える力を育てる/コントラクトブリッジ」

〔事業内容〕

(¥457,736/予算¥850,000)

東京大学駒場キャンパスにおける表記授業は2年目を迎え、夏学期（3期目。履修者32名）と冬学期（4期目。履修者14名）の2回、それぞれアシスタント料（2名）ボード組み込み料、希望者へのJCBL会報送付、四谷BCで実施したゲーム形式の最終授業/親善ゲームを支援した。特にキャンパスを離れて行なう最終授業は2回とも東大広報室の許可を得てプレスリリース作成の良い機会となり、報道機関に配

布したほか連盟ウェブサイトに掲出、科学新聞の記事、朝日新聞のコラムに掲載された。また東大ブリッジ授業が成功のうちに継続している実績が評価され、他の大学関係者からブリッジを授業に検討したい、あるいは紹介したいとのオファーが寄せられるようになっている。

(3) 他校への拡大活動 (¥87,400/予算¥70,000)

[事業内容]

京都府の私立高校、中学校、小学校、岐阜県の小学校に教育ツールとしてのブリッジを紹介した。

(4) 慶應義塾幼稚舎ミニブリッジ授業 (¥547,450/予算¥162,000)

*特記事項：当初1学期だけの予定で予算計上してスタートしたが、1学期終了直前に生徒達の継続要望が強く、結果的に1年間、計27回の授業となったこと、また1学期の基本指導の時期にアシスタントを予定人数より多く必要としたことなどにより予算超過が発生した。

[事業内容]

日経新聞に掲載されたブリッジの記事をご覧になった同校教諭からの依頼で小学4年生のクラス(36名)にミニブリッジ授業を行った。全国で初となる小学校でのブリッジ授業採用だったが初期の基本を指導する時期には各テーブルに1名が付く体制で臨み、生徒たちが慣れてくるに従い、アシスタント数を減らしていくなど、生徒たちの様子をみながら臨機応変に対応していった。2学期、3学期はコンスタントに3名の指導体制で充分対応可能となるほど生徒たちの習得度は目を見張るものがあった。楽しませてほしいとの先生のリクエストもあったことから、テキストは使わず、基本事項や用語は体感して覚えてもらうことにしたが、1学期の最後の授業はチーム戦ができるほどになった。(各学期の最終授業は最長2時間のゲーム大会を行い、チーム戦の楽しさも理解してもらえたようである)。また、ブリッジゲームの公平性や国際性を体感してもらうために、ディレクター役の連盟職員やブリッジプロを、さらには年齢に関係なく遊べることを体感してもらうために93才の現役プレイヤーをゲストに招きともにプレイしてもらうなど創意工夫のある授業を生徒たちの習得状況や関心の示し方をみながら行なった。1年間の授業で蓄積したノウハウは報告書にまとめあげ、今後他の小学校でブリッジ授業を行なう場合の貴重なモデルとしていく。

7. ジュニア層への普及活動 (¥1,239,267/予算¥1,366,000)

[事業内容]

ジュニア層への普及活動を促進するために2005年夏から小学生～高校生を対象に中・長期の休みごとに開催している「ジュニアブリッジサロン」を機軸に、ジュニアにブリッジの楽しさを知ってもらい、将来のブリッジ人口を増やすため、時期、主旨の異なる多彩なプログラムを企画・実施した。いずれのプログラムも回を重ねるごとにノウハウを蓄積しながらさらなる改善と発展につながっており、ジュニアおよびその周りの大人たちへの普及に関心を持ってくださる会員・会友も増え始め、首都圏以外では初めて長崎でジュニア向けの定期的な活動が始まった。活動の輪はゆっくりとではあるが着実に広がり始めた。ジュニアくらぶシステムを立ち上げた2005年度末時点で18名だった会員は2007年度末時点で169名となり、JCBLのジュニア会友登録者数は2005年度末の8名から10倍を超える83名と飛躍的に増加した。

- (1) 「ジュニア・ブリッジサロン」などスタンプラリー対象イベント開催回数：21回
- (2) 「橋之介ミニ道場」開催回数(ゲーム大会「ミニ道場スペシャル」含む)開催回数：13回
- (3) 「橋之介ミニひろば」開催回数：10回
- (4) ミニブリッジ大会「ハシノスケ杯」開催回数：3回
- (5) 「夏休み 橋之介親子キャンプ2007」... 2007年7月26日～27日(1泊2日、東京都八王子市高尾の森わくわくビレッジにて実施。ジュニア17名、保護者4名、スタッフ4名、計25名)

広報部会

予算額	決算額	予算残
¥35,309,000	¥30,741,937 (87.0%)	¥4,567,063

1. ブリッジ普及広報宣伝活動（¥2,056,173／予算¥2,872,000）

[事業内容]

(1) マスメディアへの広告掲載（九州地域分を除く）

①中高年齢者雇用福祉協会アニュアルブック（ブリッジ全般PR／全国）、②河北新報ウィークリー（青葉祭りリジョナル体験教室／宮城）、③北海道新聞オントナ／パブ道新／リルビット（北海道リジョナル体験教室／北海道）、④中日新聞「中日ショッパー」（浜松リジョナル体験教室／静岡）、⑤河北新報ウィークリー（河北新報杯体験教室／宮城）、⑥「富士通コンコードジャズフェスティバル」パンフレット（ブリッジ全般PR・徳島国民文化祭参加／全国）、⑦中国新聞Cue（中国新聞社杯体験教室／広島）、⑧リビング広島（中国新聞社杯体験教室）、⑨サンケイリビング（NECBF体験教室／横浜）⑩沿線リビング（NECBF体験教室）

(2) 対メディア広報活動

報道関係者にブリッジを知った上で記事にしてもらうための体験教室（メディアナイト）を実施したほか、全国のテレビ・ラジオ・紙媒体報道機関に積極的な広報PR活動を展開した。その結果、2007年度のメディア露出数は過去最大だった2006年度を越え、全国的に体験教室参加者数・入門講習会受講生・競技会参加者数の増加につながっただけでなく、社会的認知度を向上させ、協賛・カルチャーセンター開講のオファーにつながった。

☆メディア登場回数：新聞・雑誌等計 68 回（総発行部数：約 9,366 万部）、テレビ・ラジオ計 8 回

全国紙 21 回（発行部数総数：約 7,880 万部）、地方紙 36 回（発行部数総数：約

1,373 万部）、夕刊紙・雑誌・業界紙など 11 回（発行部数総数：約 113 万部）、テレビ 4 回（ニュース／特集番組など。注：普及事業部で関与した数）、ラジオ番組 4 回。

(3) クリップングサービスの利用

全国の紙媒体で掲載された「ブリッジ」に関する記事（広告を除く）を年間を通じて収集した。

2. マインドスポーツ広報・宣伝活動報宣伝活動（¥606,542／予算¥1,198,000）

*特筆事項：インテリンプイアード（当時の仮称、現「ワールドマインドスポーツゲームズ」）開催決定の場合に、囲碁・チェスなど他マインドスポーツ組織と共同記者会見を含む合同イベント開催を予定し、関連経費を計上していたが、2008年度に持ち越しになったため予算残となった。

[事業内容]

(1) 日本ペア碁協会主催、関西棋院主管の「第2回関西ジュニアペア碁大会」でミニブリッジ体験コーナーを併催。東京からジュニア担当講師を派遣し、アシスタントは大阪BCに協力を依頼した。

(2) 東京大学駒場祭でブリッジ部・囲碁部・将棋部などの学生たちが主催した「第2回マインドスポーツフェスティバル」への支援を行なった。

(3) 開催が正式決定した「第1回ワールドマインドスポーツゲームズ（WMSG）」を活用してのブリッジPR活動を各メディアに対して積極的に展開した。

(4) 広報活動に活用するため、WBF、ワールドマインドスポーツゲームズ実行委員会作成の英文資料資料を翻訳した。

(5) WMSG種目の、ブリッジ、囲碁（日本棋院・ペア碁協会）、チェス（日本チェス協会）、シャンチー（中国将棋・日本シャンチー協会）、ドラフツ（チェッカー・日本チェス・ドラフツ協会）の各国内組織間で、国内におけるマインドスポーツ全体の認知度を向上させ、ひいては各競技の人口増加に資することを目的に「WMSG チームジャパン」を結成して臨むことが合意された。3月にWMSGチームジャパン事務局を設立し、チームジャパンとしての広報活動（共同記者会見、共通広報資料製作、など）、WMSG参加のための準備活動を開始した。

(6) 長崎で始まった地元ブリッジ同好会（長崎コントラクトブリッジ研究会）とチェスクラブとの合同活動（ミニブリッジ講習会）を支援中。

3. 「脳科学的見地からみたブリッジの効用」研究（継続事業）（¥97,000／予算¥440,000）

*特筆事項：2007年度中に学会発表が行なわれることを想定して大々的な広報活動（記者発表会や講演会など）のための予算を計上していたが、発表時期が2008年9月にもちこされたことにより予算残となった。

[事業内容]

東京女子医科大学に依頼した「ブリッジと脳」に関する科学的実験研究（正式研究名「高齢者におけるカードゲームと認知機能に関する研究」）が2年を費やし総計200名という膨大なデータを集めて終了した。現在同大学で学術論文の執筆作業に入っており、9月に行なわれる日本心理学会第72回大会で正式に学会発表されることが決まった。その後、海外の権威ある学術誌に論文発表の予定。論文として一度記録されると世界規模で何十年も不滅の学術的価値と信用を持つことから、本研究は世界ブリッジ界にとっても非常に大きな意義のある研究となる。ワールドマインドスポーツゲームズと並ぶ（実質的にはブリッジ単独でそれ以上の価値を持つことになる）広報・普及活動の柱として学会発表後直ちにメディア発表を行ない、普及活動の大きな後押しとしていく。

4. ブリッジに関する出版物の刊行（¥23,476,197／予算¥26,064,000）

*特記事項:年度途中で会報の印刷手法変更の交渉を行ない、印刷経費の削減をはかることができたため、予算残となった。

[事業内容]

会員・会友の皆様への情報提供サービスであると同時に皆様とJCBLをつなぐ広報ツールとしての観点から、より一層の内容充実をはかった。

- (1) 会報「JCBLブリテン」... 年6回奇数月1回発行（各7100部）印刷費・原稿料、発送代
 - ① 1・2月号より「普及事業部活動報告」の定期掲載を開始した。
 - ② 5・6月号より「ジュニアコーナー」を新設し、成人会員に向けてはジュニア活動の紹介、ジュニアに向けてはイベント開催情報を掲載中。
 - ③ 9・10月号より「エキスパートのプレイライン」（中・上級者向け。T・リースの著作翻訳）の連載を開始した。
- (2) 「JCBL HANDBOOK」5月1日 7,200部発行

5. 広報ツールの製作・発行（¥1,922,365／予算¥1,635,000）

[事業内容]

あらゆる機会をとらえて「明るく健康的なコントラクトブリッジ」をアピールして社会的認知度の向上をはかるため、配布・展示用に下記広報ツールを製作した。

- (1) 既存ミニパンフレット「ブリッジのお話」「ミニブリッジ」増刷（各1万部）
- (2) ブリッジPR用映像資料を納めたDVDコピー製作（100枚）
- (3) 新展示用ブリッジ紹介パネル製作（7枚）
- (4) イベント用「橋之介」風船新色（アプリコット・黄色・ライトグリーン各500個）
- (5) 朝日新聞全面記事広告「コントラクトブリッジのススメ」（3000部別刷り）

6. ウェブサイトの運営（¥2,583,660／予算¥3,100,000）

[事業内容]

毎月の定例更新のほか、状況に応じての適宜更新を行ったほか、「体験教室案内」を従来の「教室案内」ページからだけでなく「初めての方」ページからもつながるように改良、ジュニアくらぶ会友数増加に伴ない、当初ユースページの中に入れていたジュニアページを独立させるなどアクセスしてくださった方々の利便性と満足度につながるよう内容の充実をコンスタントにはかった。

管理費

予算額	決算額	予算残
¥27,516,000	¥29,083,785 (105.7%)	△¥1,567,785

- (1) 各種講習会への会場の提供
- (2) その他目的達成に必要な下記経費

職員給料／臨時雇賃金／退職給付／福利厚生費／旅費交通費／通信運搬費／消耗品費／会議費／図書資料費等、普及・出版・広報活動に必要な経費

以上

競技会事業部

I 事業の状況

1. コントラクトブリッジ競技会の主催と公認

【収入167,789千円／予算165,006千円】

競技会の開催と公認については、本年度は以下の事業を実施した。

(1) 競技会的主催 (収入51,804千円／予算53,748千円)

1) ナショナル (全国大会) 競技会 (収入30,738千円)

競技会名	日 程	参加卓数	(前年度)
玉川高島屋S・C杯	4月21、22日	84	
文部科学大臣杯関東予選	5月12、13、19、20日	60	(64)
藤山杯	7月7、8日	141	(140)
外務大臣杯	8月25、26日	71.5	(65)
高松宮記念杯	9月15、16、17、22、23日	108	(104)
読売新聞社杯	10月13、14日	152	(156)
高松宮妃記念杯	11月3、4日	75.5	(86)
NISSANブルーリボン杯	12月22日	126	(132)
レッドリボン杯	12月22日	39.5	(27)
朝日新聞社杯	1月12、13、14日	150	(138)

2) リジョナル競技会 (収入17,935千円)

競技会名	日 程	参加卓数	(前年度)
柳谷杯	4月7、8日	142	(136)
サントリー杯	4月29日	115	(121)
日本航空杯	5月26、27日	66.5	(57.5)
丸の内杯関東予選・決勝	6月9、10日	13	(16)
モンタルト杯	7月21、22日	34	(38)
萩原杯	10月27、28日	100	(101)
服部杯	12月6日	189.5	(196.5)
新年リジョナル	1月6日	33.5	
西日本新聞社杯	3月1、2日	59.75	(53)
春季リジョナル	3月8、9日	22	
渡辺杯	3月22、23日	54	(53)

3) 日本リーグ (収入3,000千円)

日本リーグ1部、2部	前期、後期	40	(40)
------------	-------	----	------

4) 社会人リーグ (収入342千円)

社会人IMPリーグ	11月～3月	19	(20)
-----------	--------	----	------

5) 参加料割引 (-211千円)

(2) 競技会の公認 (収入114,066千円／予算108,558千円)

1) ナショナル競技会 (収入956千円)

NRM杯、任天堂杯並びに主催ナショナル競技会 予選を含む18競技会を公認	151.5	(184.5)
---	-------	---------

2) リジョナル競技会 (収入6,131千円)

主催リジョナル競技会予選を含む42競技会を公認	1,288	(1,526.5)
-------------------------	-------	-----------

3) セクショナル競技会 (収入82,888千円)

1,849競技会を公認	28,204	(26,111.5)
-------------	--------	------------

4) ローカル競技会 (収入1,300千円)

460競技会を公認	2,840.75	(2,960.75)
-----------	----------	------------

- | | | |
|---|-----------|------------|
| 5) IMPリーグ (収入30,976千円) | | |
| 5月～9月 | 2,697 | (2,688) |
| 11月～3月 | | (2,684) |
| 6) クラブ選手権 (収入3,822千円) | | |
| 1,382競技会を公認 | 12,169.25 | (14,349.5) |
| 7) 参加料割引 (-12,007千円) | | |
| (3) マスターポイント証収入 (1,920千円) | | |
| (4) 競技会の主催と公認事業 (34,531千円/予算33,390) | | |
| 上記競技会の開催と公認及びマスターポイント制度の確立と実施のために必要な経費として34,531千円を支出した。 | | |
2. 競技会の水準向上のための講習会等の開催【93千円/予算888千円】
競技会の水準と環境の向上のためのディレクター講習会等の開催については、本年度は以下のような事業を実施した。
- (1) ディレクター育成 (87千円)
- ・クラブディレクター資格取得者対象講習会 (1回)
東京：受講者9名
 - ・地方ディレクター講習会 (1回)
福岡：受講者14名
 - ・セクショナルディレクター候補者対象講習会 (1回)
東京：受講者15名
 - ・クラブディレクター講習会 (1回)
東京：受講者6名
- (2) JCB Lハンドブックの作成
競技会参加者の手引き、JCB Lハンドブックの改訂作業を行った。
- (3) 参加者に対する啓蒙活動 (6千円)
グッドマナー啓蒙の会報記事を作成した。
3. 競技会運営システムの保守・改良【2,556千円/予算2,714千円】
平成14年度から開発を開始した競技会集計ソフト (JTOS) については、本年度はバージョン2.4の保守を行い、10月にバージョン2.5を89のブリッジセンター/ブリッジクラブ、126名の会員/会友に配布した。
4. ブリッジライブラリー運営事業【1,345千円/予算1,691千円】
定款第5条(6)に定められた「コントラクトブリッジに関する資料の収集と管理」については、本年度は以下のような事業を行った。
- (1) 書籍の購入および製本
- ・ブリッジ関係の書籍を購入した。
 - ・ブリッジ雑誌の製本と破損書籍の修理を行った。
- (2) 図書管理システムの導入および稼働
図書管理システム導入のため、貸し出しを中止していたJCB Lライブラリーの貸し出しを5月から再開した。書棚を増設し、禁帯出本を施錠できる書棚に移動させるなどした。
5. ウィメンズ強化プログラム【1,183千円/予算1,300千円】
NECブリッジフェスティバルの際に、来日したコキッシュ氏を講師に2日間の講義を行った。また、BBOを利用して講習を行った。今回のプログラムには女性プレイヤーだけでなく、オリンピック日本代表オープンチームのメンバーも参加した。
6. 競技委員会【157千円/予算256千円】

委員会を8回、他に小委員会を開催し競技会における裁定、コンベンション規定、マスターポイント規則の管理などの検討を行った。

ディレクター資格認定者数：ナショナルディレクター：2名

セクショナルディレクター：3名

クラブディレクター：21名

7. その他事業【482千円／予算333千円】

(1) 公認クラブ支援（135千円）

公認クラブからの要望・意見などの聴取を行った。

(2) ネットブリッジ推進（323千円）

12名が参加したユース代表選考試合がBBOを利用して行われ、これを支援した。

(3) ルール委員会（21千円）

2007年10月にWBFから発表された「デュプリケートブリッジの規則2007年版」の2008年度施行に向けて、翻訳草案の検討を行った。

(4) カテゴリー検討（3千円）

競技会主催、公認条件の検討を行った。

8. その他競技会事業部の目的を達成するための事業

【39,647千円／予算41,014千円】

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料など

国際交流事業部

I 事業の状況

1. 国際試合へ日本代表の派遣と選抜

定款第5条(5)に定める「コントラクトブリッジを通しての国際交流」については、本年度は以下の事業を実施した。

(1) 第45回太平洋アジアブリッジ連合(PABF)選手権への代表派遣及び運営協力 [3、448千円/予算4、641千円]

会 期：平成19年6月3日～13日

会 場：バンドン、インドネシア

事業内容：1) オープン、ウィメンズおよびシニアの代表チーム派遣

結 果：オープンチーム（キャプテン林伸之、メンバー古田一雄、陳大偉、井野正行、今倉正史、寺本直志、高山雅陽）は参加12ヶ国中3位に入賞しプレイオフなしでバミューダボウルへの出場権を獲得、ウィメンズチーム（キャプテン小沢豊彦、メンバー島村京子、田嶋美津江、伴野和子、タン瑞子、太田裕子、瀬戸口宣子）は11ヶ国中5位となりプレイオフに進出したがベニスカップ出場権獲得はならなかった。（後日台北が失格となり繰上げで出場権獲得）シニアチーム（山田彰彦、大野京子、中村嘉幸、平田眞）は7カ国10チーム中2位に入賞し、プレイオフでもタイを破ってシニアボウルへの出場権を獲得した。

事業内容：2) PABF代表者会議へ役員派遣

結 果：大会会期中に開催されたPABF代表者会議に野崎武副会長がPABF幹事長、吉田正事務局長及び大政哲人競技会流事業部長がJCBL代表として出席した。

事業内容：3) 大会運営スタッフの派遣

結 果：事務局から大政哲人および仲村篤志の2名をスコアリングスタッフとして派遣し、連盟が開発したJTOSを使用して大会運営に協力した。

(2) 日中マインドスポーツ大会への選手派遣 [1、534千円/予算1、576千円]

会 期：平成19年6月23日～24日

事業内容：日中国交正常化35周年を記念して実施された同大会に以下の選手団を派遣した。

団長：神代高弘

オープンチーム：大野京子、山田彰彦、林伸之、前田尚志

レディスチーム：島村京子、田嶋美津江、太田裕子、瀬戸口宣子

囲碁、健康麻雀を含めた3種目が行われ全種目で中国チームが優勝した。

(3) 世界選手権への代表派遣 [4、392千円/予算7、003千円]

会 期：平成19年9月30日～10月13日

会 場：上海、中国

事業内容：1) バミューダボウル、ベニスカップ、シニアボウルの代表チーム派遣

結 果：バミューダボウル（キャプテン林伸之、メンバー古田一雄、陳大偉、井野正行、今倉正史、寺本直志、高山雅陽）は参加22ヶ国中10位、ベニスカップ（キャプテン小沢豊彦、メンバー島村京子、田嶋美津江、伴野和子、タン瑞子、太田裕子、瀬戸口宣子）は22ヶ国中19位、シニアボウル（桜井恒夫、山田彰彦、大野京子、中村嘉幸、平田眞）は22ヶ国16位で、いずれも決勝トーナメント進出はならなかった。

- (4) 第13回世界チームオリンピック日本代表選抜試合 [413千円/予算823千円]
会 期：平成19年11月10、11日、12月8、9日、平成20年3月8、9日
会 場：四谷ブリッジセンター
事業内容：1)平成20年10月3日から18日まで北京(中国)で開催される第13回世界チームオリンピックに参加するオープン、ウィメンズ、シニアの日本代表候補各1チームを選抜する。
結 果：【オープン】4チーム24名が参加し、成田秀則、伊藤陽一、野田裕之、大高栄二、小林泰、吉田勝の6名を代表候補に選抜した。
【ウィメンズ】4チーム24名が参加し、島村京子、伴野和子、タン瑞子、大西弘子、柳澤彰子、高崎恵の6名を代表候補に選抜した。
【シニア】2チーム12名が参加し、中村嘉幸、阿部弘也、山田彰彦、大野京子、井野正行、平田眞の6名を代表候補に選抜した。
- (5) 日本代表チームユニフォームの製作 [537千円/予算475千円]
事業内容：日本代表メンバーにユニフォームとエンブレムを支給した。
2. 第13回NECブリッジフェスティバルの開催(23,435千円/予算26,673千円)
会 期：平成20年2月5～11日
会 場：横浜国際平和会議場
事業内容：国外の一流チームを招待して日本人プレイヤーの技量向上と国際交流の促進を図る。
結 果：1)NEC杯：平成20年2月6日～10日
(収入1,713千円/予算2,200千円)
国外から15ヶ国からのプレイヤーで構成される9チーム(イスラエル、ブラジル/アルゼンチン/スペイン、スウェーデン/アメリカ、カナダ、イギリス/カナダ/アメリカ、オランダ、リトアニア/ベラルーシ/ポーランド、=以上招待チーム、香港、イギリス/ニュージーランド/オーストラリア)、国内参加チーム30チームの合計39チームが参加し、イスラエル(Israel Yadlin, Doron Yadlin, Michael Barel, Migry Zur Campanile)が優勝した。
2)横浜スイスチーム：平成20年2月9日～10日
(収入3,124千円/予算3,080千円)
フライトA(30チーム)
優勝：古田一雄、井野正行、今倉正史、陳大偉
フライトB(24チーム)
優勝：野田祐子、野田裕之、植木克彦、佐藤牧子、長坂整
フライトC(24チーム)
優勝：中島貞子、星維子、原田智幸、田中陵華
3)飛鳥杯：平成20年2月11日
(収入1,145千円/予算1,600千円)
168ペア参加、陳大偉-平田隆彦ペアが優勝。
4)BIGLOBEシリーズ：平成19年9月～12月
(収入5,972千円/予算5,500千円)
32クラブで529回開催、延べ22,080名参加
5)NECブリッジ体験教室の開催(普及事業部扱い)
普及事業部で報告。
(フェスティバル収入合計16,128千円/予算16,055円)

3. その他国際交流事業の目的を達成するための事業

本年度は、国際交流事業の目的を達成するために必要な事業として、以下の事業を実施した。

- (1) 世界同時大会への参加（収益461千円）
会 期：平成19年6月1日、2日
会 場：公認クラブ、ブリッジセンター
事業内容：平成19年6月1日および2日に開催される世界同時大会に参加協力する。
結 果：6月2日（金）＝12クラブ、548名参加
6月3日（土）＝12クラブ、374名参加
- (2) PABF同時大会への参加（収益479千円）
会 期：平成19年11月～平成20年4月
会 場：公認クラブ、ブリッジセンター
事業内容：平成19年11月～平成20年4月まで毎月第1金曜日／土曜日に開催されるPABF同時大会開催に参加協力する。
結 果：11月＝14クラブ、598名参加
12月＝13クラブ、434名参加
1月＝10クラブ、324名参加
2月＝11クラブ、322名参加
3月＝13クラブ、522名参加
（4月＝14クラブ、526名参加）
- (3) WBFチャリティペアへの参加（収益347千円）
会 期：平成20年1月21日～25日
会 場：公認クラブ、ブリッジセンター
事業内容：平成20年1月21日～25日に開催されるWBFチャリティペアに参加協力する。
結 果：1月21日＝2クラブ、110名参加
1月22日＝2クラブ、28名参加
1月23日＝5クラブ、198名参加
1月24日＝3クラブ、56名参加
1月25日＝7クラブ、284名参加
- (4) 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集
 - 1) ACBLとの提携の継続・強化：ACBL競技会を会報で紹介
会報にACBLナショナルの日程を掲載した。
 - 2) PABF加盟国競技会の開催情報の提供
香港インターシティ、ASEAN選手権などの開催情報を会報に掲載した。
 - 3) 各国ブリッジ組織とマスターポイント相互承認協定の締結交渉
ACBLの会員となっているJCBL会員・会友のマスターポイント情報を定期的にACBLに送付し、みなしマスターポイント(Eligibility Points)として登録している。
 - 4) JCBLホームページを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連ホームページから情報を収集し、会員に提供する。
競技会案内とNECブリッジフェスティバルの英文情報をウェブサイトで公開した。
また、WBF、ACBLなど主要ブリッジ団体のウェブサイトリンクした。
- (5) PABF大会福岡開催の誘致活動
事業内容：2007年3月の九州支部設立をきっかけに九州地区でのブリッジ振興の一助としてPABF大会を福岡市に誘致する。

- 結 果：２００７年バンドン（インドネシア）で開催されたPABF代表者会議で、当初福岡誘致を企図していた２０１１年大会はマレーシアで開催することが確認されたため、２０１２年大会を誘致すべく、PABF執行委員会への働きかけを行った。２００８年３月の理事会で２０１２年大会を、福岡を開催地として誘致することが決定されたことを受け、２００８年８月のPABF代表者会議で正式に立候補を表明する。
- (6) その他目的達成に必要な経費[2,002千円/2,412千円]
交通費、通信費、会議費等の国際交流事業部の活動に必要な経費を支出した。

九州支部関連

- 1、 支部賛助会員加入の促進
 - ・ 法人 5社 25口 個人27人 126口
- 2、 広報活動の展開
 - ・ 九州大学で体験教室開催の記事西日本新聞5月17日朝刊掲載
 - ・ 緒方支部長福岡市長訪問の記事西日本新聞6月2日朝刊掲載
 - ・ 九州支部設立記念創刊号発刊
 - ・ 九州支部機関誌第2号発刊
- 3、 講習会の実施
 - 西日本天神文化サークル等民間生涯教育機関との連携強化
 - ブリッジクラブ及びグループの育成強化
 - 大学・専門学校・企業にクラブ設立の働きかけ
 - ・ 九州大学にて体験教室実施（5月16日）
 - ・ 北九州市立江川小学校（7月26日）
 - ・ 二丈町わくわく体験教室（8月25日）小学生対象
“ （9月22日）
 - ・ 企業体験教室（ふくや） 2月1日
 - ・ ミニブリッジパーティ 3月2日
 - ・ 九電の佐賀のショールームにて体験教室予定（来期）
 - ・ インターナショナルエア・アカデミーにて講義として検討中
 - 博チヨン族のグループ組織化（ブリッジを覚えて東京に帰ろう）
 - ・ 未着手
 - 団塊の世代・高齢者組織への働きかけ
 - ・ 未着手
- 4、 学校・社会教育現場等への普及活動
 - 福岡県レクリエーション協会との連携強化
 - ・ 未着手
 - 福岡県・市教委及び社会教育センターへの働きかけ
 - ・ 社会総合教育センター訪問（7月5日）
 - インストラクター養成講座の展開
 - ・ 普及指導員講習会の開催
 - 福岡ブリッジプラザの地元・博多部支援体制づくり
 - ・ 未着手
- 5、 コントラクトブリッジ競技会の開催及び充実
 - 西日本新聞社杯（九州リジョナル・ペア戦）の継続・発展
 - ・ 3月1日～2日実施 会場 福岡交通センター
 - 全国から104ペアの参加を得て成功裏に実施
 - 緒方杯創設（初心者クラスへの普及）及び定期戦の支援活動
 - ・ 入門講習会の卒業生を中心に来年度開催したい。

第1回テレビ西日本杯（テレビ西日本50周年記念）
・7月12日～13日実施 会場 福岡交通センター

6、PABFの福岡開催誘致活動

誘致委員会設立（委員長 河部商工会議所会頭）
（顧問 麻生知事、吉田市長）

国内候補に内定 記者会見実施（3月31日）

福岡ブリッジプラザ実績報告

1. 体験教室
4月～10月、3月 253名
2. 入門講習会
3月～1月 62名
3. レベルアップ講習会
4月～8月 48名、9月～3月 40名
4. ウィークリーゲーム
4月～3月 39回
5. IMPリーグ
上期、下期各2リーグ、合計24チーム
6. サロン
月曜朝、木曜昼、1～3テーブル
7. 普及指導員講習会
2回実施、14名参加
8. ディレクター講習会
4回実施、38名参加

九州支部収入（2、124千円／予算3、000千円）

福岡ブリッジプラザ収入（6、063千円／予算3、611千円）

九州支部支出（5、603千円／予算4、436千円）

福岡ブリッジプラザ支出（13、029千円／予算12、316千円）

九州普及事業支出（4、910千円／予算5、208千円）

その他の事業

1. その他連盟の目的を達成するための管理部門を含む事業（30、715千円／予算29、891千円）

本年度は、目的を達成するために必要な事業として、以下の事業を実施した。

(1) 事務局（一般管理費）の維持（30、715千円）

理事会の管轄の下に事務局を設置して諸事業活動を支援した。

平成19年度重要業務

- 4月 1日 職員に平成19年度辞令交付
新日本監査法人による現金実査、商品棚卸実施
- 21日 新日本監査法人、監事立ち会いで平成19年度決算書作成、監査
- 5月 2日 第26回会員総会開催通知発送
- 5月26日 第26回会員総会開催、184名参加
- 5月31日 平成18年度決算書を四谷税務署、新宿都税事務所に提出
- 6月25日 文化庁文化部芸術文化課に、平成18年度事業報告及び収支決算報告書、平成19年度事業計画及び収支予算届、登記事項変更登記完了届を提出
- 8月13日 文化庁文化部芸術文化課に文部科学大臣杯終了届を提出
- 10月 9日 文化庁文化部芸術文化課に公益法人現状調査票を提出

(2) 収益事業の運営（収益事業特別会計に計上）

1) 商品販売事業

ブリッジ用品および書籍の販売と仕入れを行った。収支については収益事業決算書を参照されたい。

2) 四谷ブリッジセンターとの提携

NPO法人四谷ブリッジセンターとの業務契約書に基づいて協同して会場施設の運営とブリッジの普及・振興に務めた。

(3) 基金の運用

主催クラブの指定により、ローカル並びにクラブ選手権試合の公認料を次の基金の資金に充当して各種活動を支援した。

1) チャリティ基金（2,050千円）

日本赤十字社等の各種団体のほか、新潟県中越沖地震等に次のとおり寄付した：

新潟県中越沖地震義捐金	500,000円
全国視覚障害者雇用促進連絡会	200,000円
日本フォスター・プラン協会	200,000円
朝日新聞厚生文化事業団	100,000円
讀賣光と愛の事業団	100,000円
日比バガサの会	100,000円
高松宮妃癌研究基金	200,000円
癌研究会	150,000円
日本赤十字社	100,000円
横浜音声訳グループやまびこ	50,000円
アイメイト協会	100,000円
あしなが育英会	100,000円
日本イコモス国内委員会	100,000円
国連WFP協会	50,000円
合計	<u>2,050,000円</u>